

かしてつ沿線地域公共交通戦略会議（茨城県石岡市・小美玉市）

総合事業

取組み(功績)の概要 「鹿島鉄道跡地をバス専用道として整備し、定時速達性を確保」

平成19年3月末に廃線となった鹿島鉄道跡地という既存ストックをバス専用道として有効活用することにより、旧鹿島鉄道と同等のサービスが行えるようなBRTを導入し、定時性と速達性を確保した公共交通を実現。
バス専用道の交差点部において、交通管理者と連携し信号機の設置や一時停止の交通規制等を行うなど、円滑な運行を確保。
沿線の自治会で組織される「かしてつバス利用促進協議会」や、高校生による「かしてつバス応援団」により、市内イベントでのPR活動が実施されるなど、地域が一体となったバスを維持する努力を行っている。

事業内容

1. 鹿島鉄道跡地を活用したバス専用道の整備

- 平成19年3月末に廃線となった鹿島鉄道跡地という既存ストックをバス専用道として有効活用することにより、旧鹿島鉄道と同等のサービスが行えるようなBRTを導入し、定時性と速達性を確保した公共交通を実現。
(平成22年8月30日より実証運行、平成24年4月1日より本格運行を開始。)
- 行政によりバス専用道を整備し、民間バス事業者が運行を行う公設民営方式を採用。

2. 円滑な運行を行うための工夫

- 交通管理者と連携し、バス専用道と他の道路が交差する交差点部において、交通道路のピーク時交通量を基に信号機の設置や一時停止の交通規制を実施。
- また、誤進入車両等の防止のため、リモコン開閉式遮断機を設置するとともに、バス専用道の路面を黄色に着色舗装することでバス専用道であることを明確化。
- さらに、バス停への連絡通路等を導入する等、歩行者の安全性確保策を実施。



バス専用道を走行するBRT



沿線住民による清掃活動



バス専用道の交差点部



利用促進協議会によるPR活動

3. 地域住民の取組

- バスの利用促進を図るため、沿線自治会で自主的に組織される「かしてつバス利用促進協議会」や、沿線の7つの高校から組織される「かしてつバス応援団」により、バス専用道の除草・清掃作業や市内イベントでのPR活動等が行われており、地域が一体となったバスを維持する努力が行われている。

